

1. 社会的背景・スポーツを取り巻く環境の変化

- (1)人口減少や少子高齢化によるスポーツ環境の変化
- (2)新型コロナウイルス感染症の影響やデジタル技術の進化によるライフスタイルの変化
- (3)スポーツを通じた健康増進、地域活性化、共生社会の実現への期待の高まり
- (4)オリンピック・パラリンピック等を通じたスポーツへの意識や国際交流への意識の高まり
- (5)スポーツニーズの多様化

2. 現施設の課題

■県民体育館の主な課題

- 老朽化等により、修繕コストがかかるとともに利用に支障が生じている
- 土日祝や平日夜間の利用率が高く、ニーズに対応しきれていない
- 全国規模の大会やイベントなどに対応するためには観客席や駐車場が不足している
- プロスポーツなどのトップチームの大会の開催が一部の競技に限定されている

■多目的グラウンドの主な課題

- 土日祝の利用が多く、ニーズに対応しきれていない
- J3に昇格した高知ユナイテッドSCの練習場所の確保が難しい

3. 整備において考慮するポイント

(1)スポーツ振興における施設面の課題への対応

- ◇プロスポーツの誘致や大規模な大会等の開催、日常的なスポーツ活動のニーズの多様化への対応など、さらなるスポーツ振興に向けた施設・設備の整備

(2)スポーツを通じた県政課題へ対応

- ◇交流人口や関係人口の拡大を含め、人口減少対策につながる整備

(3)災害時の避難環境の整備

- ◇整備候補地の環境を踏まえ、災害時の避難を想定した整備

(4)コストの削減

- ◇民間ノウハウを活用したイニシャルコスト(初期費用)及びランニングコスト(維持費用)の削減

(5)収益化の視点

- ◇継続して収益が得られるよう、多様な活動ができる施設・設備を整備

4. 基本方針策定に向けた重点ポイント

(1)スポーツ×エンタメ

- 全国規模の競技大会やプロスポーツの試合、コンサートなど、県内外から若者や子育て世代が集い、楽しめる空間を創出
- 全県規模の競技大会等の主たる施設として整備

(2)スポーツ×防災

- 災害発生時において、施設利用者の一次避難が可能な施設として整備

(3)同種施設との役割の明確化

- 周辺の同種施設の状況を踏まえ、県立のスポーツ施設として優先的に整備する機能・規模等を整理し実情に即した施設を整備

(4)ユニバーサルなデザイン

- すべての人が利用しやすいデザインを考慮した整備

5. 新施設の機能・規模

<新施設>

- ・**必要なフロア面積を確保**するとともに、大規模大会やプロスポーツ、多分野のイベントの開催が可能な**アリーナ機能**を整備することが望ましい
- ・フロアをはじめ、附帯設備などに**多様な活用を想定した機能**を整備することが望ましい
- ・**災害時の避難を想定した整備**をすることが望ましい
- ・誰もが**自由に集える憩いのエリア**をつくることが望ましい

具体的な内容案

- メインアリーナはバスケットボールコート2面～3面、サブアリーナはバスケットボールコート1面がとれる広さ
- メインアリーナは**5,000人程度**の観客を収容できる座席数
- 屋外に憩いのスペースと**現状以上の台数**を収容できる駐車場
- 多様な活用を想定した床、音響、照明、会議室・控室等の機能

6. 整備候補地

<新施設>

- ・交通アクセスの利便性を活かし、**県民体育館の現有地に整備**することが望ましい

<多目的グラウンド>

- ・**新たな整備については別途検討**する

7. 今後のスケジュール(案)

※今後の検討を踏まえて適宜見直しを行う

R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)
あり方 検討会	諸事項の 精査及び 基礎調査	基礎 調査	基本 設計	実施 設計	工事
	基本 計画	基本 設計	解体 設計	事前 調査	解体 工事
					供用 開始

<基礎調査>

- 基本計画の前提となる事項を調査・分析
 - ・ステークホルダーの分析
 - ・市場環境調査
 - ・具体的な機能、規模
 - ・整備手法
 - ・概算事業費・運営体制及び料金設定 等

<基本計画>

- 施設整備全般(運用を含む)の骨格
 - ・整備の基本方針
 - ・施設計画
 - ・概算工事費
 - ・財源と県の実質負担額
 - ・管理運営計画
 - ・工事計画のまとめ 等

基本計画で取りまとめる内容及び基礎調査（案）

基本計画			基礎調査	
区分	項目	内容	基礎調査 の必要性	基礎調査の内容等
計画の背景	①計画の趣旨	計画のねらい・目的		
	②計画の位置付け	県の主要な計画との関連性		
	③当該施設及び関連施設の現状・課題	県民体育館及び関連施設の利用状況や課題	○	R6：関係者にヒアリング
	④県政の課題	県の主たる課題（人口減少、南海トラフ対策 等）	○	R6：県人口や競技人口、防災対策の整理
	⑤スポーツ振興の現状・課題	県のスポーツ振興における現状と課題	○	R6：施設面からのスポーツの現状・課題の詳細を整理
検討の経緯	①県立スポーツ施設のあり方検討会	R6設置の県立スポーツ施設のあり方検討会の検討経緯		
	②新施設の整備に向けた基礎調査	基本計画策定に向けた検討を進める上で必要な事項の詳細を調査・確認	※	R6、R7の調査・確認内容を基本計画に盛り込む
整備の基本的な 考え方	①基本方針	重点的な考え方や目指す姿		
	②主たる機能・規模	目指す姿の実現に向けた主な機能と規模	○	R6：あり方検討会を踏まえた機能・規模の整理
	③構造	施設の平面図、立面図などのイメージ図及び構造物の材質等		
	④防災対策	一次避難及び避難場所としての対策	○	R6：防災対策として必要な事項を整理
	⑤周辺施設との調和	周辺の同種施設や文化施設、商業施設、運動公園との役割分担や一体的な活用方策	○	R6：他施設との集約化の検討 ステークホルダーの整理 R7：ステークホルダーの分析
	⑥整備における配慮事項	円滑な交通アクセス、騒音等の環境保全対策 等	○	R7：市場調査
施設整備計画	①整備条件の整理（関連法規等）	建築法等を踏まえた整備条件	○	R6：関連法規による整備条件の確認 R7：整備条件の詳細整理
	②具体的な施設の概要（屋内・屋外）	アリーナ、観客席、諸室、駐車場、憩いのスペース等の概要	○	R6：必要な施設の整理 R7：必要な施設の実現性の分析
	③動線計画	施設内の人や車の動線		
	④防災機能	一次避難及び避難場所として利用しやすい機能		
	⑤照明・音響・映像設備	施設の目的・目指す姿を踏まえた照明、音響、映像設備の仕様		
	⑥外観・内観イメージ	施設の外観・内観のイメージ図		
管理・運営	①管理体制	施設の実現に向けた効率的な管理体制のあり方	○	R7：効率的な管理体制の分析
	②利用日・利用時間	利用日及び利用時間の設定	○	R7：効果的な運用に向けた分析
	③利用料金	利用料金の設定	○	R7：収益化に向けた分析
	④効率的な運用	効率的な運用に関する提案		
事業費及び 事業手法	①事業費（整備費・維持管理費）	イニシャルコスト（解体費、設計費、建築費等）及びランニングコスト	○	R7：概算事業費の算出
	②事業手法及び評価	事業手法の分析（実現性・経費・スケジュール）及び評価	○	R6：民間事業者へのヒアリング R7：サウンディング
整備による効果	①スポーツ振興への効果	新施設の活用を通じたスポーツ振興の広がり		
	②経済的効果	新施設における取組・活動による経済波及効果	○	R7：市場調査
	③社会的効果	新施設の活用を通じた社会的効果	○	R7：市場調査
事業スケジュール	①今後の事業スケジュール	整備に関する今後のスケジュール		

視察の概要

1. 視察日

令和6年11月12日

2. 視察先

日本財団パラアリーナ
(東京都品川区東八潮 3 - 1)

3. 視察者

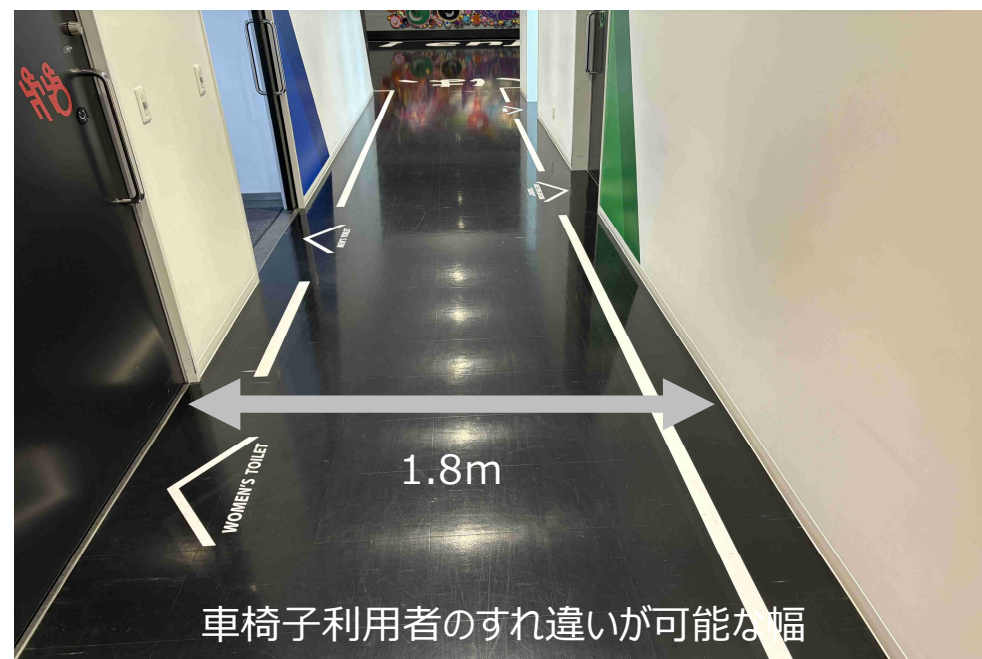
- ・高知県スポーツ課 三谷
- ・高知県スポーツ課 福島



視察施設の概要【日本財団パラアリーナ】

項目	【高知県】 県民体育館	【東京都】 日本財団パラアリーナ	規模・機能・特筆すべきポイント
施設外観			【規模】 左記のとおり 【機能】 ・メインフロアの床は、車椅子ラグビーによる傷等を考慮し、コーティングされている床を購入し、さらにコーティングを重ねている。 ・空調に力を入れており、選手の体温調節に貢献している。空調による音・風の問題があるが、ブラインドサッカー、パラバドミントン等は事前ヒアリングを行っており問題にはならない。 ・廊下の床は黒で統一、幅は1.8mで脇にある白線のラインで動線の誘導を行い、案内の文字を大きくすることによる利用満足度の向上 ・玄関スロープは、1/10と1/20の両方の勾配を設けている。 ・駐車場はすべて車椅子利用者用の広めの幅に設定。 ・備品や器具等は、ほかの施設にも参考にしてもらえるように基本的に既製品を設置している。
設置者 設置年	高知県 1973年（S48）	公益財団法人 日本財団 2018年（R元）	
面積 (敷地・建築・延床)	10,714㎡（敷地面積） 6,094㎡（建築面積） 8,901㎡（延床面積）	3,187㎡（建築面積） 2,989㎡（延床面積）	
収容人数 観客席数	4,644人 (固定席：1,572席)	－（観客席なし）	
メインフロア面積	1,945㎡	2,035㎡	
プロチーム の利用	無	－	【特筆すべきポイント】 ・事前ヒアリングにより、車椅子ユーザーのニーズがわかっていたため、車椅子ユーザーが使いやすいような施設に寄せている。 ・2018年のオープン当初から毎日予約が入っており、予約の重複も多い（1日5～6件は予約重複のため、断っている） ・競技団体に登録されている選手しか利用できないように割り切り。
特徴	－	・スポーツ競技をある程度限定し、その競技に特化した施設	

視察施設の概要 【日本財団パラアリーナ】



視察施設の概要 【日本財団パラアリーナ】

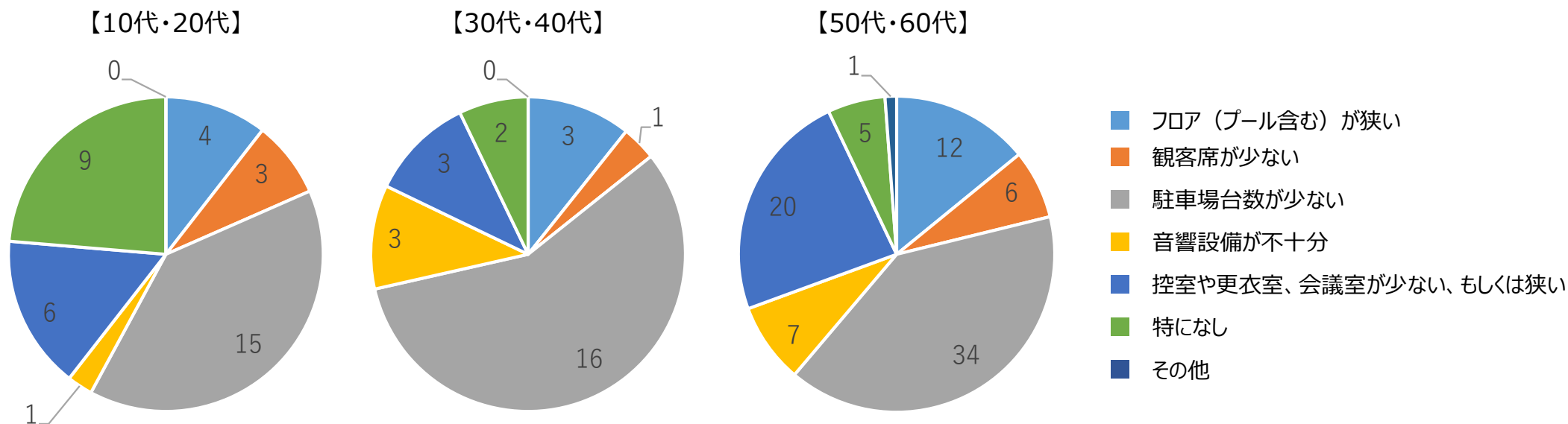


太田市総合体育館（オープンハウスアリーナ太田）と市民体育館

項目	【高知県】 県民体育館	【群馬県】 太田市総合体育館 (オープンハウスアリーナ太田)	【群馬県】 太田市市民体育館
施設外観			
設置者 設置年	高知県 1973年（S48）	太田市 2023年（R5）	太田市 1981年（S56）
面積 (敷地・建築・延床)	10,714㎡（敷地面積） 6,094㎡（建築面積） 8,901㎡（延床面積）	158,789㎡（敷地面積） 7,327㎡（建築面積） 10,611㎡（延床面積）	158,789㎡（敷地面積） 4,398㎡（建築面積） 6,005㎡（延床面積）
観客席数	4,644人 (固定席：1,572席)	5,000人	1,987人 (固定席：1,132席)
メインフロア面積	1,945㎡	2,460㎡	2,200㎡
プロチーム の利用	無	有 群馬クレインサンダーズ(B1)	—
特徴	—	・大型の四面ビジョン ・VIPルームの設置 ・数多く設置された照明	・隣接している太田市総合体育館が建設後も、利用目的の違いから運営を継続。 総合体育館：興行 市民体育館：日常利用

県民体育館に関する利用者アンケート（年代別）

【問 1】現在の施設の課題と思うものに○をつけてください（複数回答可）



【問 2】新たな施設に求めることについて該当するものに○をつけてください。（最大 3 つまで）

